

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 山田 祐子

研究課題		高齢者虐待対応ソーシャルワークモデルと専門的人材養成の課題～第2回上級認定社会福祉士研修プログラムの評価
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>2006年4月より高齢者虐待防止法が施行され、これらの職務に携わる専門的な人材の確保および資質の向上を図ることが課題となった。</p> <p>2009年度厚生労働省補助金事業で、日本社会福祉士会とともに申請者は、「高齢者虐待対応ソーシャルワークモデル」を研究開発し、『高齢者虐待対応ソーシャルワークモデル実践ガイド』（中央法規出版、2010年）を上梓した。その後、当該研究事業を発展させ、2015年3月に、日本社会福祉士会の「虐待対応専門研修～アドバイザーコース～」が、認定社会福祉士制度研修として、初の上級認定社会福祉士の認証を受け、2016年度から隔年に実施されている。申請者は、開始時から日本社会福祉士会の高齢者虐待防止研修の研修プログラムの研究開発に携わっており、2016年度、2018年度とも監修者となった。</p> <p>本研修は、認定上級社会福祉士として、虐待対応ソーシャルワークモデルの理論と方法を学ぶとともに演習等を通じて市町村等関係機関に対するアドバイスの視点や手法を習得することによって、市町村と協働した地域における権利擁護や適切な虐待対応の体制づくりに寄与することを目標としている。認定上級社会福祉士は、従来の日本社会福祉士会が行ってきた「アドバイザーコース」研修を基に、更にもその内容の専門性と科学性を高めた研修プログラムの研究開発を目指すものであり、本研究では、その2回目である研修プログラムの評価研究および高齢者虐待対応ソーシャルワークモデルの発展を含めたプログラム開発と専門的人材養成の課題の検討を行う。</p>
	研究の結果	<p>日本社会福祉士会のプロジェクトにおいては、プログラムの評価等を行うにあたっては、参加者全員にアンケートを実施している。アンケートの内容は、研修プログラムの単元ごとに、自己評価、内容の評価および改善点等の意見等を回答するものである。アンケートの設問項目について、前回は、講師の評価とプログラムの評価がやや混在している設問項目であったので、今回はよりプログラムや、学習内容の項目や形態（講義と演習、演習も個人のワーク、グループワーク、ロールプレイ等）について、社会福祉士としての評価の視点を当てた構成と内容にした。アンケートの結果から導き出された課題点について、委員が議論し、とりまとめ、次回の実施の際に生かすことができるように提言としてまとめた。その内容は、次回の実施のため認証機構に提出する申請書類等に、単元レベルの改善、修正を行うということで反映させる、というプロセスとし、職能団体として、ソーシャルワークモデルをアップデートし、かつ専門的人材養成について、課題を集約し質の向上を図る体制となっていることが明らかになった。</p>
	研究の考察・反省	<p>職能団体である日本社会福祉士会において、理論モデルの改良や質の高い人材養成の場はあることは評価できるが、日本における専門に高齢者虐待対応を担う専門的人材育成としては、モデル事業の規模ですらなく限界がある。この認定研修を通して、地域リーダーを育成することにより、各都道府県単位で、スキルの標準化、平準化を図るのが現実的な方法である。その方策として、日本社会福祉士会においては、都道府県社会福祉士会の体制整備を強化するため、2020年度の第8期研修は、上級の認定社会福祉士研修ではなく、コンサルテーション機能をもつ都道府県単位で活動している専門職チームの登録者のみを対象として開催することで準備を進め、次回以降は、上級の認定社会福祉士研修として実施するよう予定されている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究成果物】</p> <p>○単著 山田祐子「高齢者虐待防止と自治体の役割と課題」『実践自治 2019 冬号』通巻第80号、イマジ出版、2019年12月25日発行、18頁～23頁</p> <p>○共著 厚生労働省老健局『高齢者虐待の実態把握等のための調査研究事業 報告書 厚生労働省老健局 令和2年3月』日本社会福祉士会、2020年3月</p>	